

本仁 戻

Presented by
Modoru Motoni

グランドグニッポル

Grand
Gunnipol

BBC DELUXE
ヒーローコミックス デラックス



グランドグニソール

Grand Guinisol

本仁 展

Modoru Motoni

Presented by

C o n t e n t s

あ と が き	グ ラ ン ・ ギ ニ ヨ ー ル 黒 幕 	グ ラ ン ・ ギ ニ ヨ ー ル 赤 幕 	グ ラ ン ・ ギ ニ ヨ ー ル 青 幕 	グ ラ ン ・ ギ ニ ヨ ー ル 序 幕 	ロ マ ン テ ィ ツ ク
.....
193	161	129	97	37	3

旦那様
これを飲んで
お休み下さい

あとは私が

コンラート
自慰を見せて
くれないか…

お前の
みだらな姿が
見たい

悶える顔と
震えるお前の
性器が見たい

私の忍耐を
無下になさる
お積りですか…

そうだ
お前とそして
僕の忍耐は

まさに今日この日
無下にされるために
あったのだよ

ロ
マ
ン
シ
ョ
ウ

私、コンラートは
今日この日のために
耐えてきた

そしてそれは私たちに
天上の快楽を
もたらすだろう

Romantic



いけません
旦那様
いけません

奥様が
気づかれます

華子など

安男以外の
使用人に
気づかれたら…

もっと
脚を開くんだ
コンラート

お前の
恥部が見たい…

お前を日本に
連れて来たのは
此処を愛して
やるためだぞ…

ああ…旦那様
そう仰言って
下さいますなら

猶子を…

せめて一時間
お待ちを…

私、
コンラート・ネルンストは
母国独逸で彼と出会った



彼と私は馬が合い、



……



私は父の職業の都合で少年時代を横浜で過ごした。成人後もこの経歴を買われ日本人と関わることも多く

『流暢な日本語を話す通訳』として彼に雇われた



またそれ以上の感情もすぐに抱き合ったが

異国の子爵と現地人の通訳という関係であった。その時でさえ、





この愛と
忍耐が

Ja…

帰国した彼は
激しい非難と嘲笑を浴びた

外国人の男を連れ帰り
それを執事にしたからである

子爵は狂ったのか？
悪ふざけなのか？

「語学教師」の
間違いだろう

彼は執事だ

勤勉で
優秀ですよ

それに
忠実だ

いや

外国人の
執事なんて！

あの
白い肌の
虜なのさ……

しかも
「忠実」だ

外国人の
男妾を
執事にするとは

とんだ世間の
嘲い者だよ！

この非難と嘲笑は
最後まで
止まらなかった。



ネル…

ネルンスト
です奥様



無論
私と奥方の関係は
初めから最悪だった

コンラート・
ネルンストです
奥様

ネルンストと
お呼び下さい

お前…



妙な名前ね
覚えられないわ



ではネルで
結構です



妙な名前ね
覚えられないわ



お前
怖いくらいの
色白だから
シロと呼ぶわ

シロ

「シロ」とは
家畜番の男が飼っていた
犬の名前と同じである

私の業務は
使用人の管理であつたが
彼らも私に反抗的だつた

シロさん

「ネルンスト
さん」と
お呼びなさい

すみません…
覚えられなくて

シロさん

やあは
ああは
ああは

ケ〇ウは臭いと
言うじゃないか

犬の名前が
お似合い
だよ!

くみず

でも
ミツさん…

あいつ
いい匂いが
するのよ
こう…
そばに寄ると
ふうつと…

ネンネだね!

奴を寢床に
誘つてごらん…

きつと下の毛から
とんでもない
匂いがするよ!

この女中頭の「ミツ」が
使用人たちの
支配者であつたので、

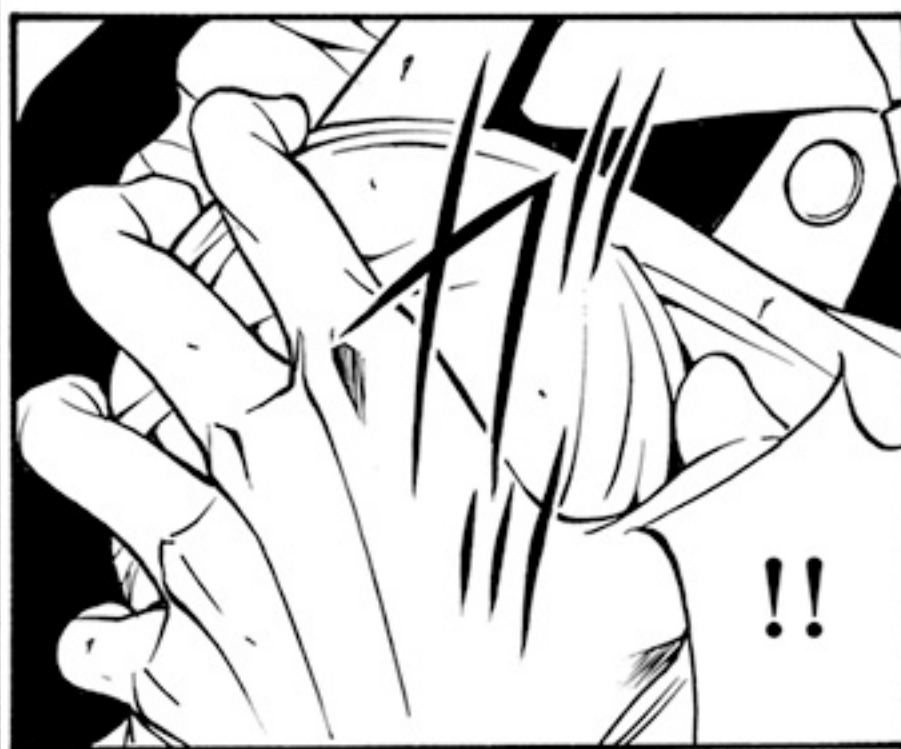


匂いを
嗅いでみなさい…

私の陰毛の



なんです
シロさん



!!



私はこの女のほかに
数人の使用人と寝た
女も男もである

使用人たちは
私の言いつけをきくようになり
私を犬の名前でなく
「ネルンストさん」と呼ぶようになった

性の欲望とは
人種も国境も越えて
容易に人を動かすものである

美しい物もまた 普遍である
例えばそれは 彼の目に映る私であり
私を呼ぶ 彼の声であつた

コンラート

彼は私を美しい発音で
「コンラート」と呼んだ
彼だけが私を
「コンラート」と呼べた

コンラート

私が奥方に犬の名前で
呼ぶことを許したのは
「コンラート」と
呼ばせないためである

私の業務には
財産の管理もあり、
私はこの家の財政が
火の車であることを知った

殆どが奥方の散財であり
或いは彼の
利那主義的な生き方の
所為であつた

ひと月で
帰国する積りが
一年も独逸にいたしな

と
彼は笑つたが

それは明らかに
この没落寸前の子爵家に
致命的な散財であつた

はは

その上
その執事の
不祥事！

恐慌の煽りを喰つて
君の投資は全て
水の泡だ

この家がどうにか
持ち堪えているのは
奥方の実家が
大それた資産家であり
その援助のお陰だつたが



義父上

そいつを見て
確信したわ!



義父上、彼は何ら
不祥事など起こして
おりませんよ

むしろ私のために
新たな取り引きを
二つも――

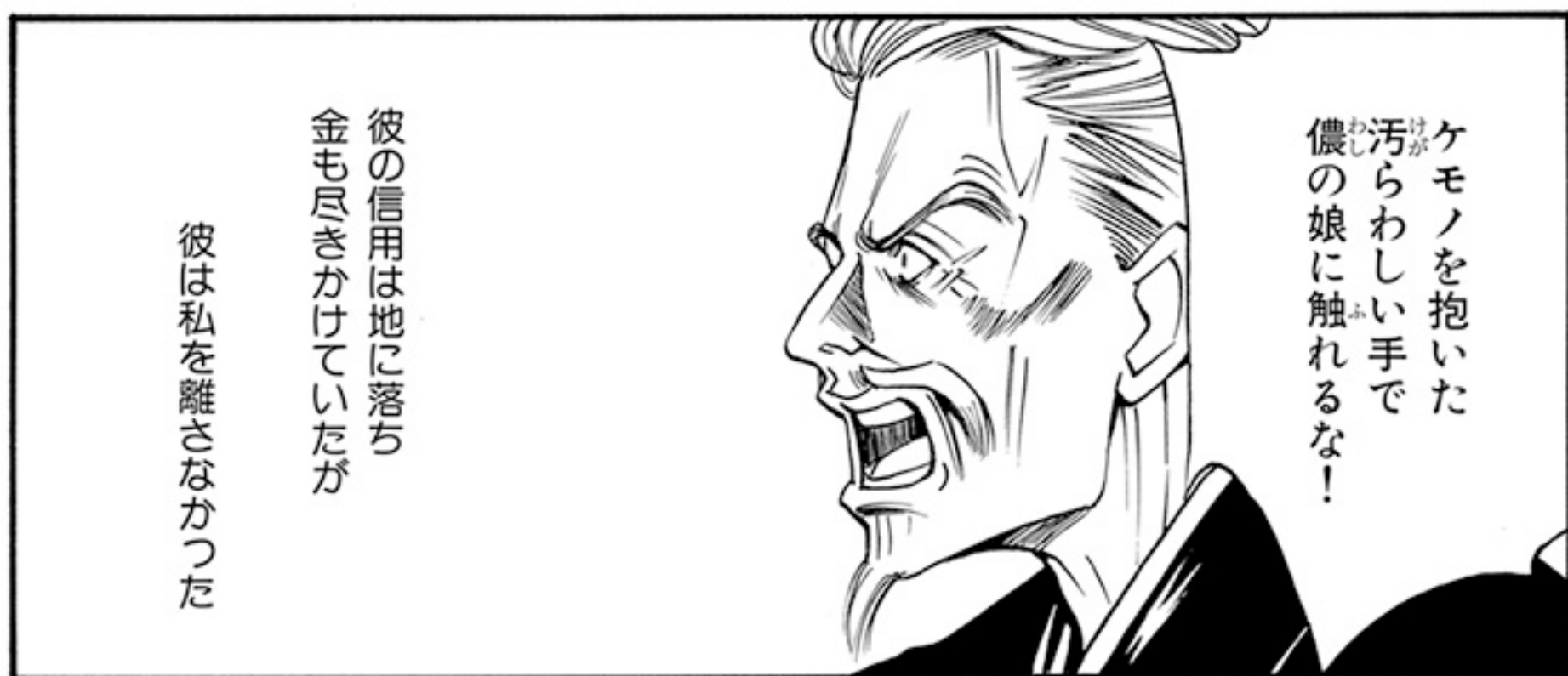
なら僕の援助は
もういらんな!



その執事の
存在が
不祥事なんじゃ!

そいつが息を
していること
そいつが人の目に
触れること


その生臭い
男妾を雇う限り
もうお前に
援助はせん!




ケモノを抱いた
汚らわしい手で
僕の娘に触れるな!

彼の信用は地に落ち
金も尽きかけていたが


彼は私を離さなかつた



使用人たちと
寝たか…？




申し訳
ございません




構わんよ
コンラート


それは全て
僕のためだ
裏切りではないよ



強欲な
商談相手
とも…？



同じ時刻
僕も苦しんでいる
お前を
夢想して…



僕はその奉仕を
美しいと思うよ…

お前が僕のために
純白の体を
豚どもへ与える

彼とは決して寝まい、
と心に誓っていた

疚しい関係であると
疑われれば疑われる程

私は「寝まい」と
強く思った。
それは彼も同じである

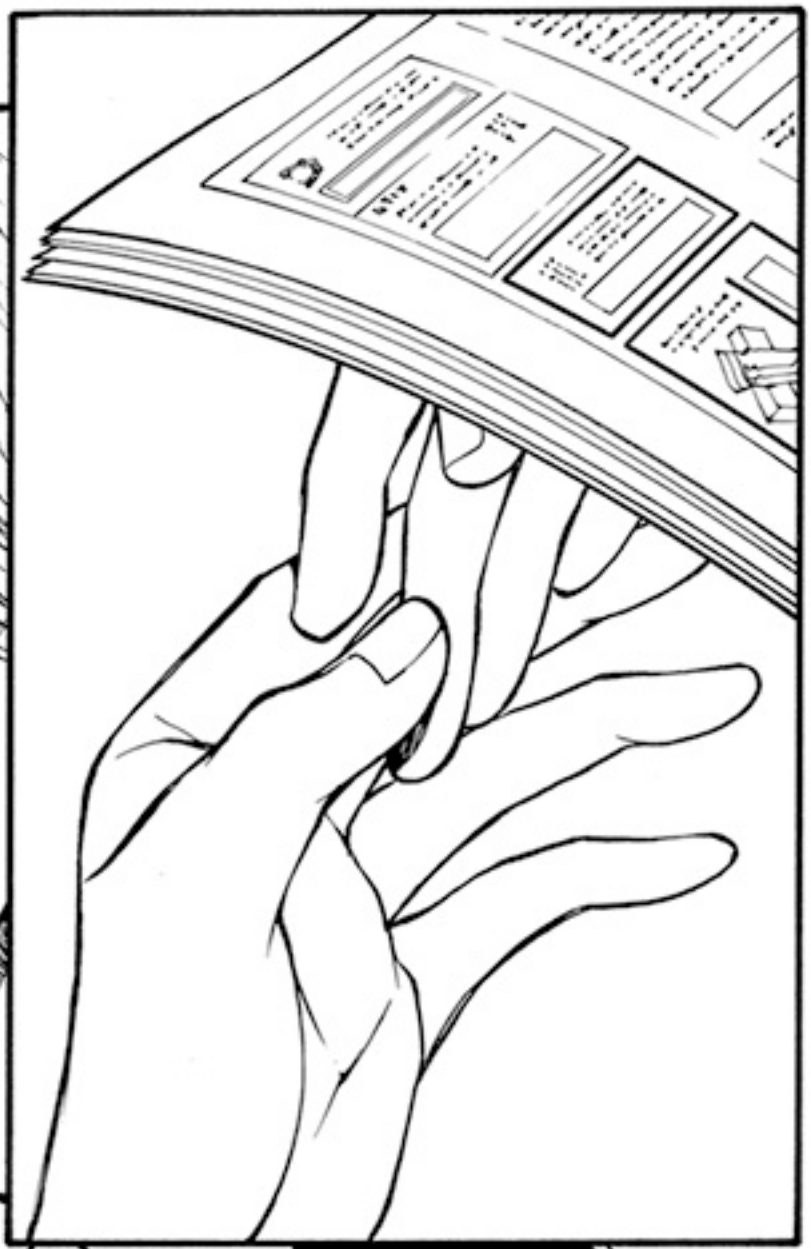
何か面白い
記事は
あったか…

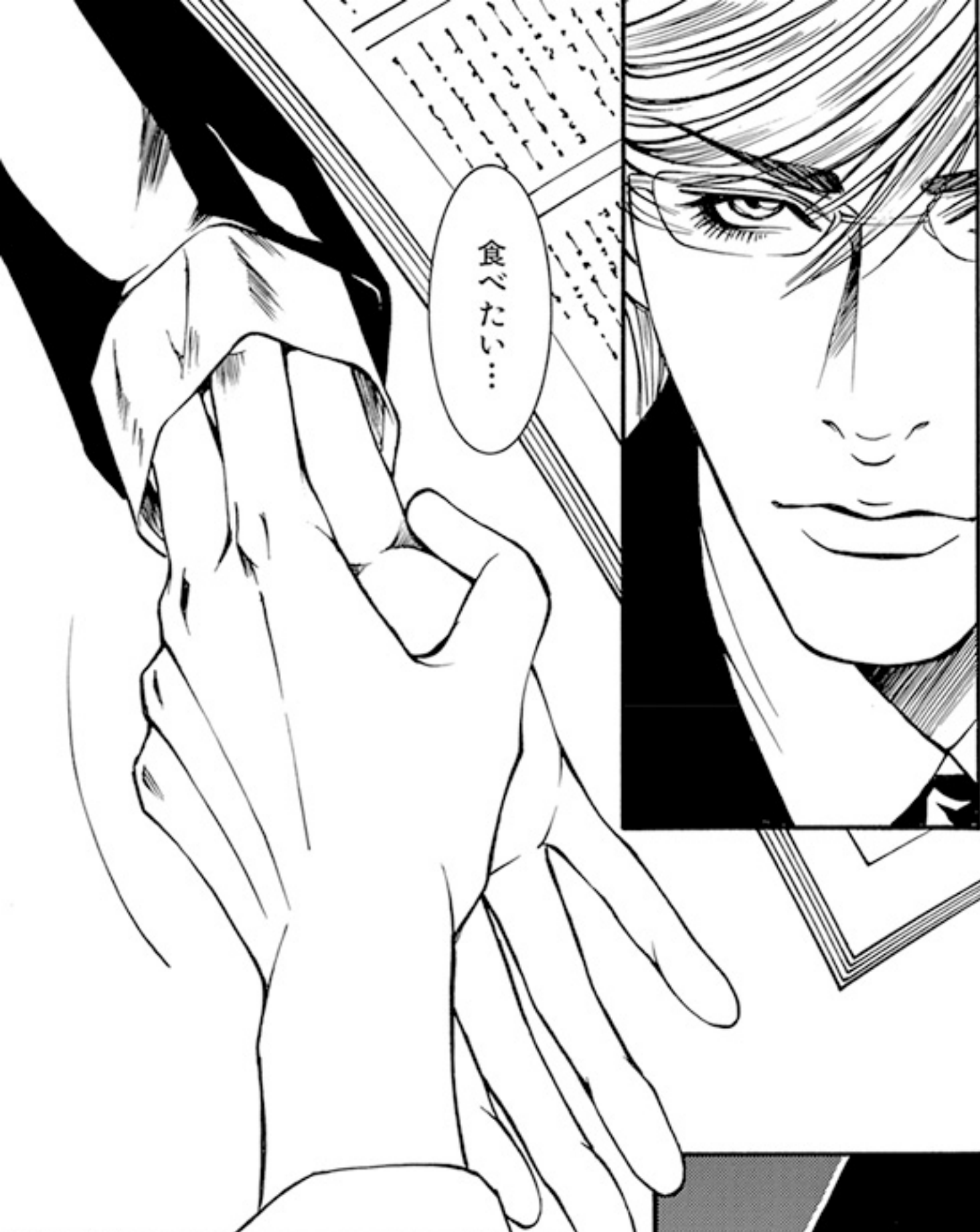
ほう…

満州が
キナ臭いこと
になっておりますよ

朝食は
如何なさいますか

今朝のスープは
美味しゅう
ございますよ…





食べたい…



うん…



食べたい…



…